

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年12月17日(金)

その4

## ◇ 白亜の校舎⑦ 壁面塗装いよいよ開始

校舎教室棟の屋根上部に突き出た部分を「ペントハウス(PH)」というらしい。この部分の足場が取り払われ、少しだけ白亜の壁面が姿を現した。「ペンキ塗りたて」とはいえ、その白さに驚愕だ。



塗装前の PH は、コケの付着が最も激しい箇所の一つ。コケの沈着により壁面が「紫色」であったことは、今は昔の話。



とりあえずは屋根の補修工事前に PH のみ塗装を行ったらしい。

けれども不思議なことがある。

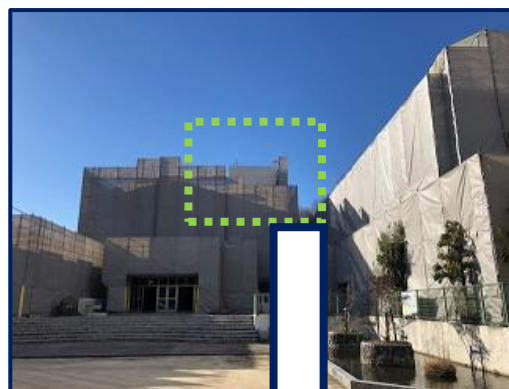
吹き付け塗装工事に行く「コンプレッサー音」が全く聞こえなかったことだ。

塗装を行っている工事関係者とすれ違ったときに、その理由が分かった。彼らが着用する作業着は、各所に白ペンキの跡。そして、手に持っていたのは塗装関係道具と「塗装ローラー」だ。

そう。校舎の塗装は、ローラーによる【手塗り】だったのだ。

思わず工事関係者を呼び止め、塗装についての話を聞いた。

塗装は計3回行うそう。下塗りで下地作りを行った後、仕上げ塗りが2回。そのいずれもが【手塗り】で、吹き付けによる塗装は行わないとのこと。【手塗り】の理由を聞くと、吹き付け塗装はどんなに注意を払っても塗料が飛散する。それを防ぐための対応策が【手塗り】だ。児童の健康面を考えての作業対応に感謝。



校舎から視線を変えると、学校周辺の山色が一気に変わったことに気付く。

令和3年12月(初冬)



令和3年4月(春)



左の写真は山が白く見えるが、雪を被っているわけではない。落葉樹がすっかり葉を落として幹と枝だけとなり、それが白く見えるのだ。4月に撮影した右の写真と比べてみると、山色の違いがよく分かる。

着目したいのは、左右の写真を比べた際、「深緑」の部分は変化が少ないこと。ここがミカワクロマツなどの常緑樹である。対して、4月に黄緑色に見える部分は落葉樹だ。この落葉樹も、5月から夏にかけてだんだんと緑を濃くしていく。



つまり、遠方から常緑樹と落葉樹を見分けるには、「4月に見る葉の色『黄緑が落葉樹で深緑が常緑樹である』でわかる」という仮説が立てられる。

はたして仮説は成り立つか…森林組合常任を務めてみえる中根社教委員長に聞いてみよう。